

舞鶴赤十字病院 骨粗鬆症リエゾンサービス活動について

舞鶴赤十字病院 薬剤部
土佐 和彦

当院は京都府北部舞鶴市に位置し、平成28年度人口8万5千人高齢化率30.3%の地域にあり、198床(急性期病棟：100床 地域包括病棟：50床 回復期リハビリテーション病棟：48床)の病院である。舞鶴市には四つの公的病院があり、当院は主に整形外科部門を担当する立場にある。年間、大腿骨近位部約100例、椎体骨折約90例の入院があり、脆弱性骨折の患者は当院で手術し回復期リハビリ病棟で治療後退院となる特徴がある状況の中で、専門性のあるメディカルスタッフが院内にいるべきではと考え骨粗鬆症リエゾンサービス活動(以後OLS)を提案した。起案から今日に至るまでの経緯について報告する。

2016年9月OLSを知り当院に適合すると感じ準備開始。2017年5月OLS勉強会を開催し認定試験挑戦者を募った。2018年4月3名の新認定者と1名の認定者の採用により4名が院内に誕生した。委員会を設立し入院患者から活動開始した。日頃の業務にできるだけ影響しないよう簡素に計画した。例えばパンフレットは製薬会社提供品を使用、チェックリストは共有し必要最低限になど。現在以下のように活動をしている ①骨粗鬆症リエゾンサービス委員会(月1回ミーティング開催) ②リエゾンサービス共有チェックシート作成 ③DXA測定(クリニカルパス組込：大腿骨近位部骨折患者はOP7日目、椎体骨折は体動可能時) ④フローチャートに準じて介入 看護師：パンフレット指導 薬剤師：薬剤指導 栄養士：栄養指導 理学療法士：運動指導(月2回対象患者に運動教室開催) ⑤患者本人又は家族に、治療希望の有無、継続可能かの状況を確認する ⑥主治医と連携し、治療導入又は退院後治療導入するなどコンサルタントを行う問題点として ①DPCのため治療制限 ②退院施設での治療制限 ③院外他職種との連携など。

今後の計画 ①骨粗鬆症外来(月1回を計画中) ②地域連携(舞鶴市役所健康づくり課との情報交換中)

以上ご参考になれば幸いです。